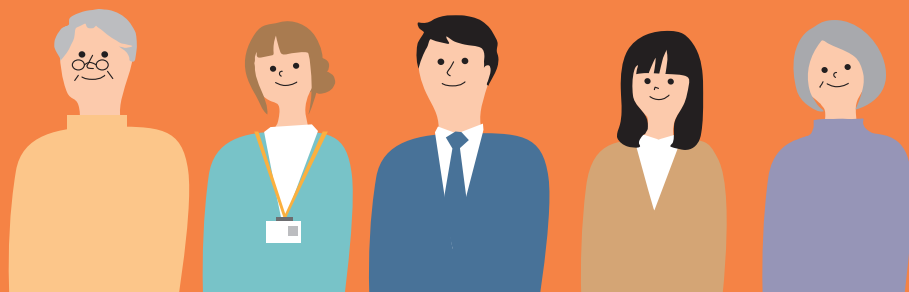


子どもの 居場所づくりは 地域づくり。 信州の未来を みんなで育てましょう。



多世代交流の場でもある子どもの居場所づくりの今
「信州・子どもの居場所づくり白書」
2026年度版

公益財団法人 長野県みらい基金



長野県みらいベース
キャラクターKiffy（キッフィー）

子どもの居場所は、 地域で最も小さくて、 最も大切なインフラです。

少子化・高齢化、地縁コミュニティの希薄化、核家族化、消費社会の進展による個別化、ライフスタイルの多様化、一人暮らしの増加等々によって、地域から「集い」が減っています。

子どもを中心とした居場所は、このような地域の社会的背景のなか、地域の子どもからその保護者たち、そして高齢者までが集える場として開催され、全県に広がっています。また、こうした居場所づくりは、集いの場づくりを通じて地域活性化に貢献し、地域全体で子育てすることで、将来世代に自信をもって受け渡せる地域をつくることでもあります。

老若男女、世代を超えた人と人との温かいつながりを創出し、多くの人たちが参加する未来をつくる活動として機能しています。



子どもの居場所ってどんなところ

特別なことをするわけでもなく、

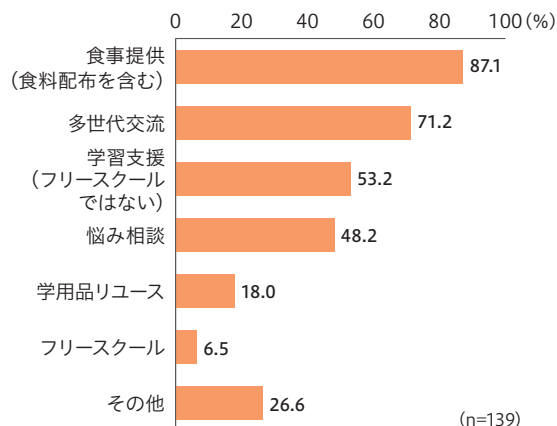
ごはんを一緒に作って、一緒に食べて、
一緒に学んで、おしゃべりをして楽しんで、
お互いを気にかける。

そんな場所が多世代交流型の
子どもの居場所（こども食堂）です。

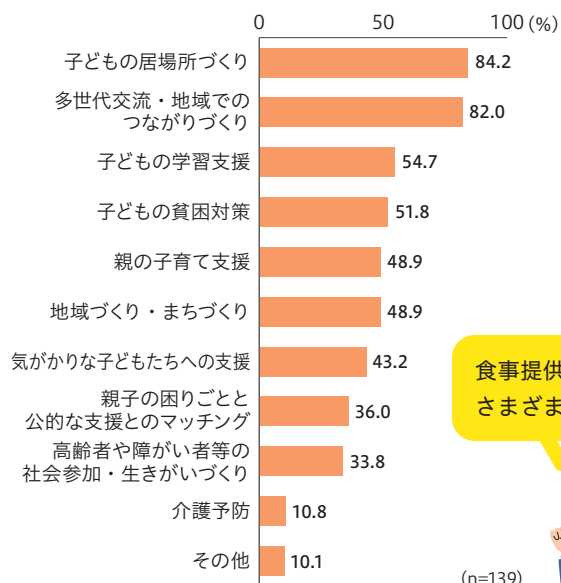


■何をしている場所？（目的・活動内容）

・活動内容

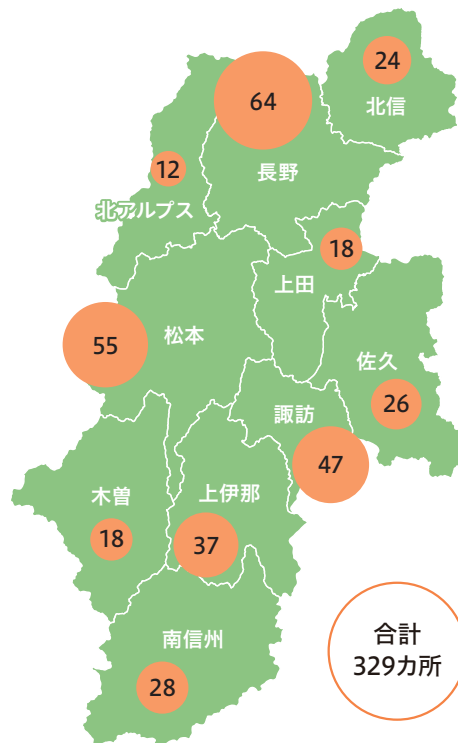


・居場所を開催する主な目的



■どこにあるの（県内329カ所）

・県内の子どもの居場所



※2025年3月現在、県内の「信州こどもカフェ」登録団体を含め、今回確認できた居場所の数

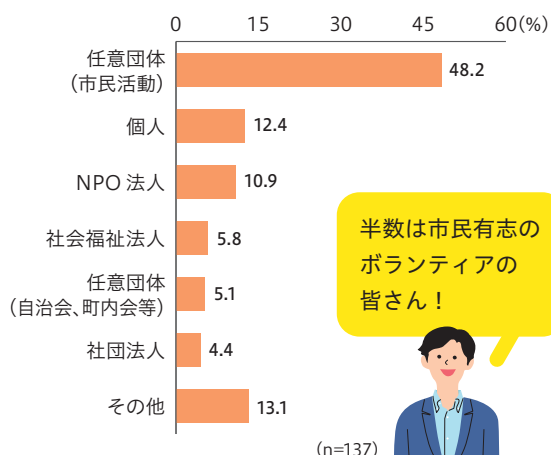
食事提供だけじゃない、
さまざまな目的で開催！



すでに、
300カ所以上で開催！

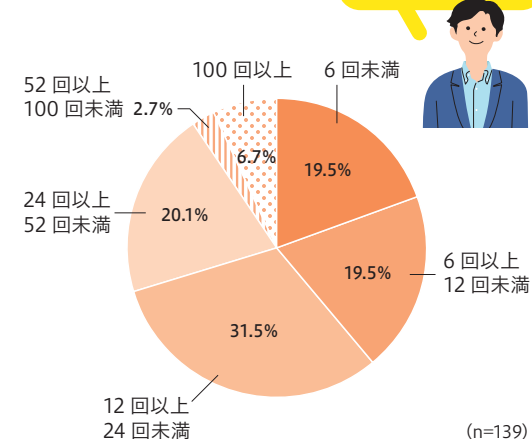
■担い手は

・運営主体



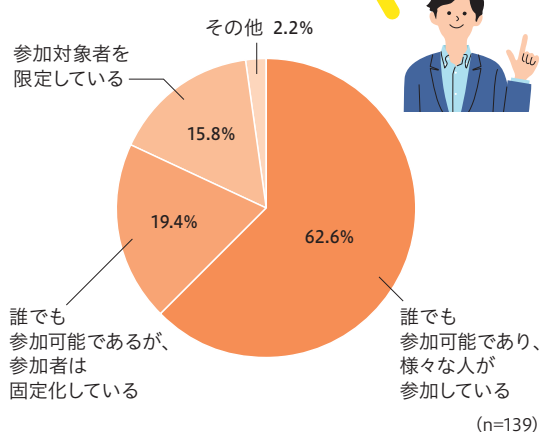
■実施回数は？

・1年あたりの実施回数



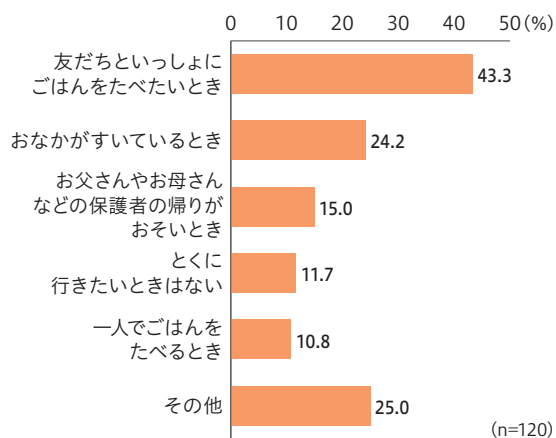
■参加条件

・参加条件の設定状況



■どんな時に行きたい場所？

・どんなときに行きたいか



「みんなで一緒に
ご飯を食べたいとき」
が行きたいとき！



居場所がもたらす効果は

多世代交流型で運営されている

「子どもの居場所（こども食堂）」には

5つの機能が考えられています。

■長野県内10地域でワークショップを開催



長野県内10地域で、主に居場所の運営者と協力者によるワークショップを開催(2025年7月～2026年1月)。居場所で実感した効果エピソードと運営課題を共有した。
210名参加、651件の効果エピソード、406件の課題・解決策が集まった。

※「P4の効果エピソード」と「P7の課題コメント」は、ワークショップで出された声から抽出。

1 「地域づくり」の機能
にぎわいづくり、地域活性化

2 「食育や孤食対応」の機能

3 「親支援、子育て支援、虐待防止」の機能
多世代の人と親たちの重要な交流の場

4 「子どもの貧困対策」の機能
気づきにより貧困の連鎖を断ち切る

5 「高齢者の健康づくり」の機能
子どもと関わる機会による高齢者の健康づくり、共食による食事の質の向上

食事をお願いしている日は
家事が減り、少し気持ちが楽。
子育ての負担軽減になっている。

子育て世代の親同士の
交流が増えて嬉しい。
すごく癒やしの
時間にもなっている。

ほっとできる
アットホームな
雰囲気なので、
子育ての悩みや弱音を
気軽に聞いてもらえる。

学校に行けなかったけど、
ここは正直な思いを話せる
安心できる場所で、
いろんな人と話すうちに、
学校に行けるようになった。

流しそうめんや
餅つきなど、家庭では
難しい体験ができ、
新しい友達もできて、
いつもより笑っている
時間が増えた。

家族以外の人と食事が
できるようになったし、
地域の大人も一緒に、
みんなで何かをつくる機会が
前よりも増えた。

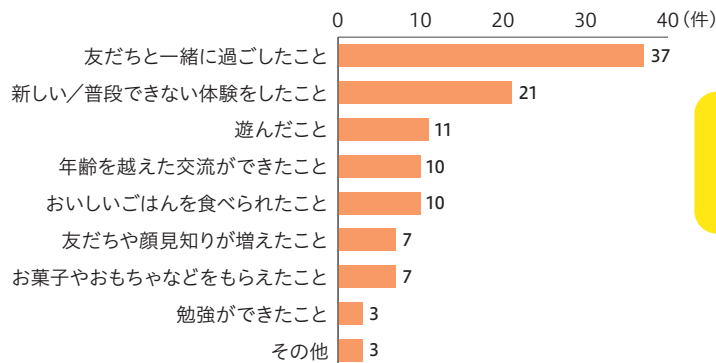
普段では関われない、
いろいろな世代と関われ、
やりがいを感じているので、
これからも楽しみながら協力したい。

小さい頃から通っていた
子たちが、今は頼もしい
お兄さん・お姉さんとして、
みんなと関わるのを楽しみに
来てくれるのが嬉しい。

お手伝いはできないけど、
お米や野菜の提供で少しだけ
応援できているのが嬉しい。

■子どもたちへの効果と変化

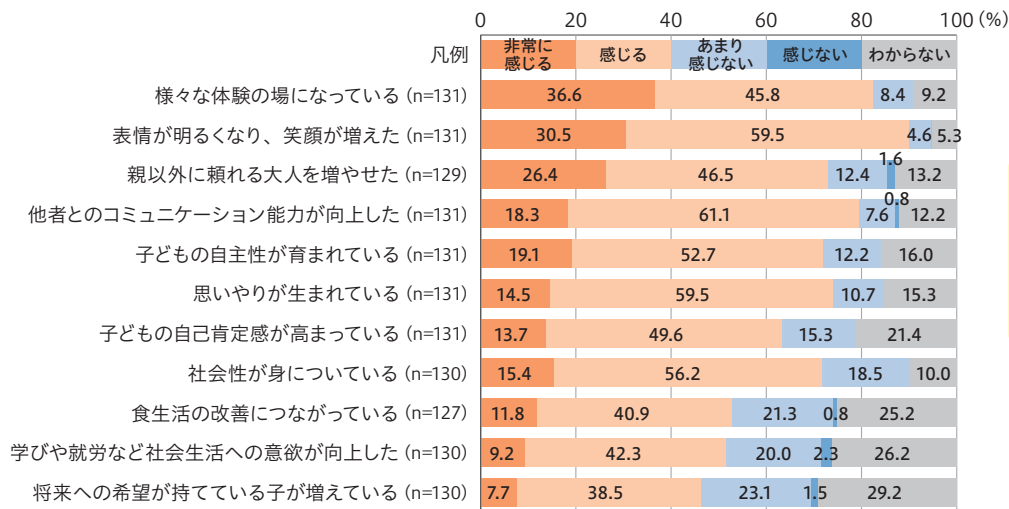
・居場所で経験した楽しかったこと（子どもの自由記述回答をカウント）



子どもたちは
「友だちと一緒に過ごせる」
のが一番の楽しみ！



・子どもへの効果（運営者調べ）

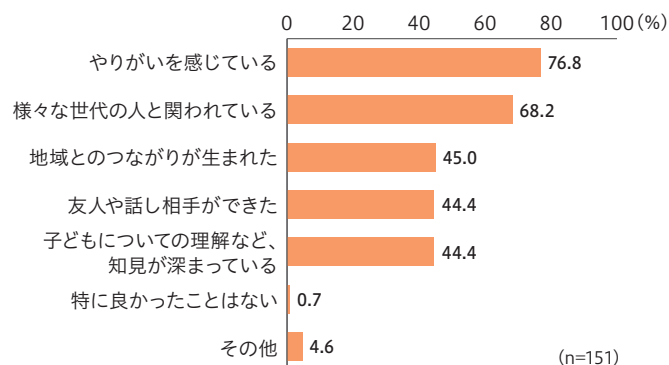


運営者は
「笑顔が増えた」
「さまざまな体験の
場になっている」
と特に感じている！



■協力者（ボランティア）への効果と変化

・活動を通して得られたこと（協力者）

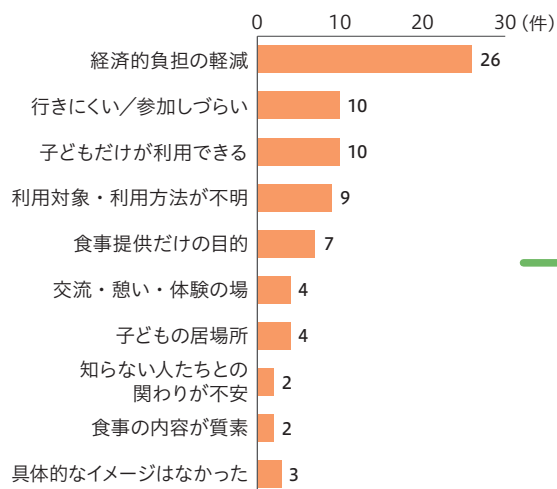


協力者は
「やりがい」
「多世代との関わり」
を約7割の人が
感じている！

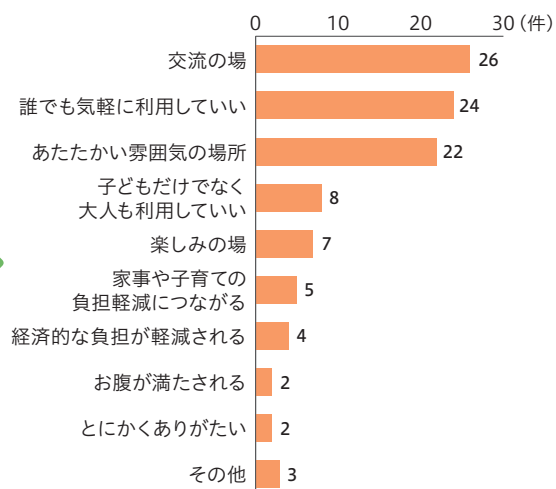


■保護者への効果と変化（自由記述回答をカウント）

・居場所に対して当初持っていたイメージ



・実際に行ってみてのイメージ



最初は特別な場所だと思っていたが、参加してイメージが変わり、多世代の温かさに触れられる安心の場だと感じるように！

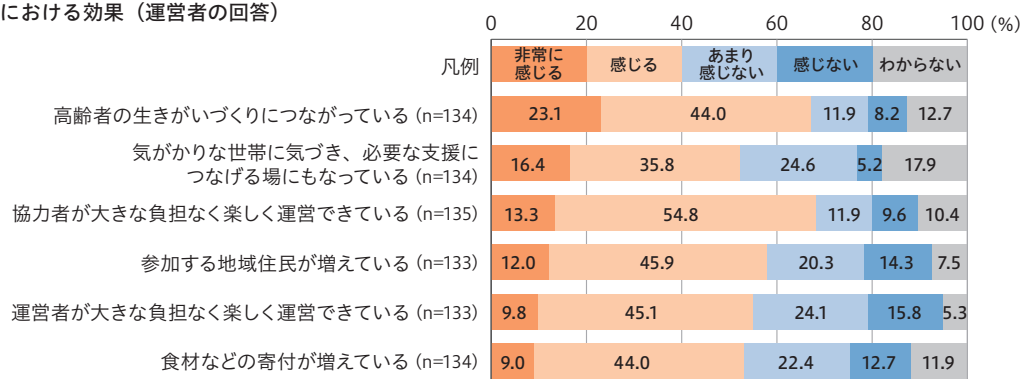


運営者が感じる「保護者への効果」

- 1位** ほっとできる場所になっている（85%以上が回答）
- 2位** 表情が明るくなった、元気になった、穏やかになった（75%以上が回答）
- 3位** 気軽に相談できる場所になっている（65%以上が回答）
- 4位** 子育ての負担が軽減されつつある（60%以上が回答）

■地域への効果

・地域における効果（運営者の回答）



「高齢者の生きがいづくり」「協力者の楽しみ」につながっている！



さらに、近所のおじいちゃん、おばあちゃんが、野菜やお菓子を持ってふらりと立ち寄ってくれるようになったといった効果もできています。

居場所づくりの課題は

企業に寄付をお願いして
なんとか運営している。

いただいた食料品や物資の運搬、
特に取りに行くのが大変だし、
保管場所の確保が難しい。

助成金頼みの
運営なのでいつまで
続けられるか不安。

運営スタッフの
不足と高齢化で
次世代への継承が不安。

生活貧困家庭や
本当に支援が必要な人が
参加してくれているか
分からない。

運営者のみなさん
こんな課題で悩み、
困っています。

子ども、高齢者、障がい者。
誰もが混ざり合う場合は、
今の行政の仕組みだけでは
支えきれない。

活動を持続させるために、
現場で働く人への
謝礼（人件費）を助成金などで
賄えるようにしたい。

会場に使っている
公民館の抽選に外れると
活動場所がなくなる。

さまざまな課題を
抱える子どもたちへの
適切な関わり方が
分からない。

参加人数に応じた
広さの会場を
安定して確保できない。

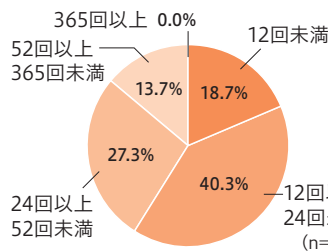
万が一の
食中毒発生の不安が、
運営上の心理的な
ハードルになっている。

アレルギーを持つ子ども
安心して誘いたいけれど、
事故を防ぐための設備も人手も
足りないので、安全を優先して
断らざるを得ない。

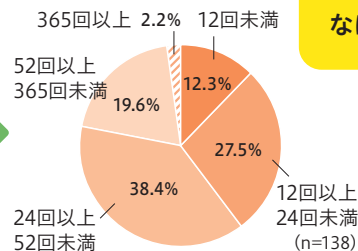
※コメントは、長野県内10地域で開催したワークショップ
で集まった「406件の課題・解決策」から抽出。

■開催・利用状況と希望回数のギャップ

・実施回数 / 年



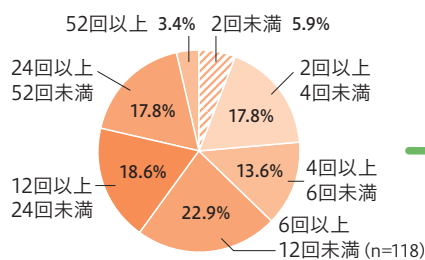
・実施希望回数 / 年



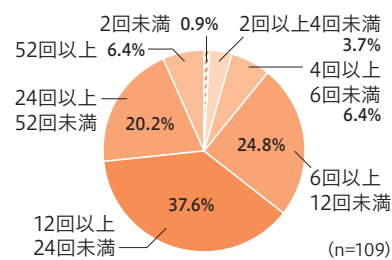
多く実施したいのに、できていない！
もっと利用したいのに、できない！
なにが一番の課題なんだろう？



・利用回数 / 年（保護者の回答）



・利用希望回数 / 年（保護者の回答）



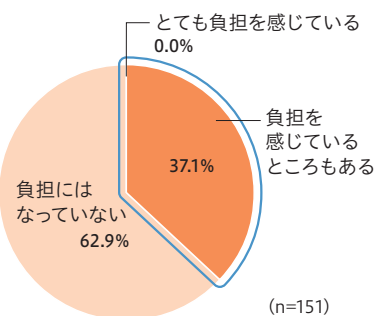
■マンパワーの課題



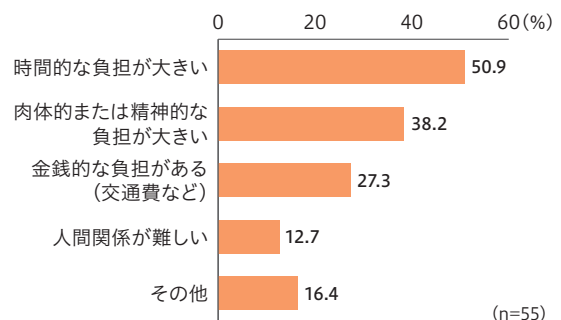
「運営者にかかる負担が大きい」
「ボランティアが不足している」
この2つがマンパワーについての大きな課題！

ボランティアスタッフの負担感

・活動による負担を感じているか



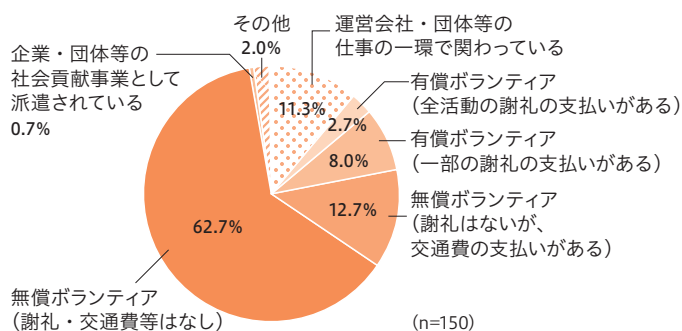
・その負担を感じる点は



約4割の
ボランティアが
何らかの負担を
感じている！



・活動の形態



無償ボランティアのみでの
運営が7割以上！
（交通費のみ支給も含める）



■資金・物資の課題

資金と物資課題のベスト3



- ① 運営資金が不足
- ② 食材費の負担が大
- ③ 助成金の見通しが不安

物価高騰による費用負担の増加を
答えた団体は**約8割!**
食材費の費用負担が増えたと
答えた団体は**約9割!**

年間の必要経費の推計（アンケート調査ベース）

1回あたりの支出は中央値換算で

約1.7万円（ボランティア人件費は含めません）



県内329団体が現在の実施回数を
1年間運営するための必要経費は

約4.6億円（現状推計）

希望回数を実現するための
必要経費として、年間推計で

約7.2億円が必要

※必要経費の内訳：食材費、謝礼、会場使用料に加えて、時給換算したボランティアの人件費等を含む

そこには

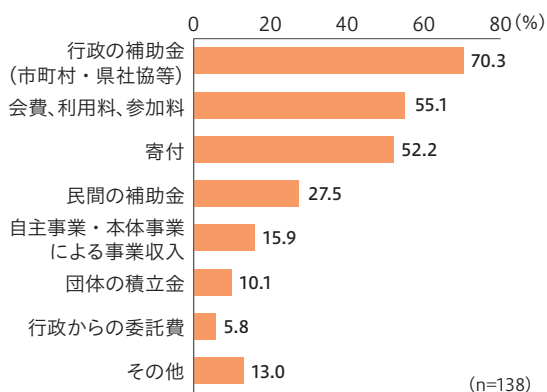
2.6億円の
ギャップがある！

4.6
億円

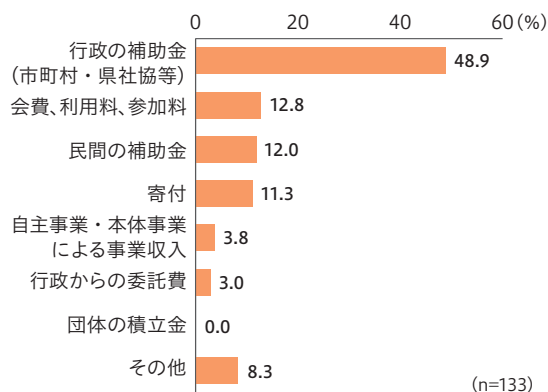


7.2
億円

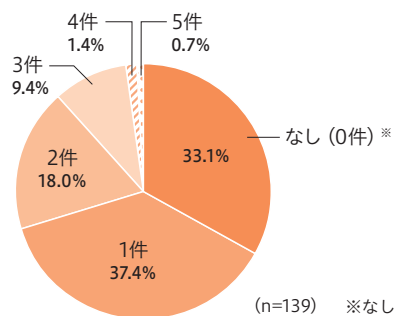
・事業費の調達手段



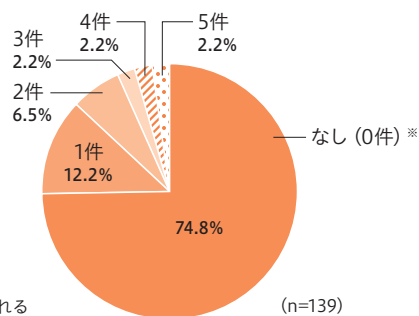
・最も多くの額を調達している手段



・助成金・補助金の件数



・寄付の件数



子どもの居場所を、 あなたの地域にとってなくてはならない 「みんなのインフラ」にするために

実現の鍵となるのは、地域の多様な分野の人たちが関わり、支えることです。
未来の地域づくりへ、支援の輪を広げましょう！

子どもを中心とした居場所は、にぎわいづくりを通じた地域活性化、食育や孤食への対応、子育て支援、虐待防止、子どもの貧困対策、高齢者の健康づくりなどの機能を内在しています。地域にとって欠かせない「みんなのインフラ」となりつつあります。

そんな、多世代交流型の居場所づくり（こども食堂）を推進するために、**世代を超えた地域住民の皆様、地域を支える自治体関係者、そして地域の企業（商店）や団体の皆様の力が必要不可欠です。**



特にその実現を後押しできるのが、**地域の「企業（商店）の皆様の力」**です。

企業や商店ならではの知見や物資・資金力、そして従業員の皆様の力が、子どもの居場所を、地域にとってなくてはならない「みんなのインフラ」にするために必要です。

■ご支援の方法はさまざま

寄付による支援

物資や場所、
流通などによる支援

従業員参加の
プログラム提供による支援

地域に根を張る企業や商店の皆様にとって、子どもの居場所づくり（こども食堂）への支援は、**直接地域づくりに貢献することができる大切なCSR活動**になります。

■寄付・協働によって期待できる企業（商店）のメリット

CSR・SDGs 推進の
大きな柱となる

ステークホルダーへの
活動発信による
企業イメージアップ

従業員の
社会貢献活動への参加による
能力アップ

従業員の
エンゲージメントの向上

人脈・ネットワークの
拡大

他

「うちの会社は、地域の子どもの居場所を人と物資で応援しているんですよ」と、
従業員が地域や子どもに自慢できる企業になりませんか。

もっと詳しく知りたい方は
こちらをご覧ください。



会社や皆様のご支援や協働について

長野県みらい基金は、法人の皆様からのご寄付や、協働事業などを通じて、多世代交流型の居場所づくり（こども食堂）の推進を一緒に実現します。

企業の組織力やネットワーク、そして専門知識、あるいは提供いただける場所やちょっとしたおすそわけ。事業の規模を問わず、皆様が持つ多様な力を、地域の居場所に活かす作戦を一緒に練りませんか？

まずはお気軽にお声がけください。

■お問い合わせはこちら



matsumoto@mirai-kikin.or.jp

（長野県みらい基金 松本事務所）

子どもたちの食と居場所を、地域全体で末永く支えていくために。

長野県みらい基金は、新たな支援の柱となる

「信州子どもフード基金」を設立します。

この新しい仕組みを、地域の皆様と共に育てていきたいと考えています。

子どもの居場所（こども食堂）全国状況

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ
「2025年度こども食堂全国調査(2025年12月)」より

■箇所数の増加

全国のこども食堂の箇所数は1万2,602カ所となり、1万2,000カ所を上回り、2023年から毎年連続して1,700カ所以上増加。この箇所数は公立の小学校・義務教育学校を合わせた1万8,545校の7割に近く結果となっています。

こども食堂の年間延利用人数を推計すると2,533万人となり、そのうち、子どもは1,732万人にのぼることが判明しました。

■政策による後押し

政府による政策の推進（「地域こどもの生活支援強化事業」など）や、デジタル庁の地域幸福度（well-being）指標に「こども食堂の数」が追加されるなど、こども食堂が地域社会における公共性の高い取り組みとして認識され始めており、こども食堂が社会に必要な活動として制度面で後押しされつつあると考えられます。

公益財団法人 長野県みらい基金

長野事務所

〒380-8570 長野県長野市南長野幅下692-2 県庁1階

TEL. **026-217-2220**

松本事務所

〒390-0852 長野県松本市大字島立1020 松本合同庁舎2階

TEL. **0263-50-5535**